

令和8年度 郷土の歴史講座 第2回学習会資料 令和8年7月26日(日)

奥会津の道シリーズその2

宇 都 宮 街 道

奥 会 津 博 物 館
文 化 財 専 門 員
渡 部 康 人

●宇都宮街道の概要

- ①宇都宮街道は、若松と氏家を結ぶ。31里10町52間(約123km)。
- ②宇都宮街道は、天和3年(1683)9月に発生した日光大地震により、下野街道通行不能になったため、整備され元禄8年(1695)10月に開通した。
- ③若松の横山九兵衛が1383両(1億7288万円)で落札。人足は約5万人。工事費は幕府出。
- ④工事は、5工区に分割し実施。工事は、9月5日開始。10月11日完成(①-⑤出典:『家世実紀 卷之七十八』元禄8年10月9日「南山松川通新道成就」から(『会津藩家世実紀』第4巻633p)。
- ⑤ただ、宇都宮街道の会津と那須の境界をなす大峠道については、寛文6年(1666)8月に完成した『会津風土記』に記されているので要約して紹介する。
- ⑥そこには、長江庄・原村(下郷町大松川)から大峠に至る。ここから南に行くと、板室や大田原に着くとある。
- ⑦さらに、「正保の絵図」(正保年間{1644～1647}に作られた絵図)(福島県立博物館所蔵)には、「陸奥国御蔵入南山音金村ト下野国那須領板室ト境目大峠一里山より大峠迄五町、峠より板室迄四里拾八町」とある。「一里山」とは一里塚のこと。
- ⑧このように、大峠道は古くから会津と那須との往還に使用されていた。

- ⑨野際新田宿は、50軒の宿駅計画。25軒は水没した五十里村から、残りの25軒は大内村から中三依までの移住希望者を募り移住させる計画。
- ⑩移住希望者には家の建築費として1人5両(62万5000円)の助成金。
- ⑪野際新田宿移住計画は思うように進まなかったようである。
- ⑫三斗小屋宿でも50軒の宿駅計画。会津藩では1軒5両の助成金を出した。しかし、移住者は計画通りに集まらなかった(⑨-⑫出典:『下郷町史』第7巻)。
- ⑬元禄12年(1699)8月15日(新暦9月8日)の台風で大峠道は甚大な被害が発生。
- ⑭宝永元年(1704)、宇都宮街道は脇街道に格下げ(出典:『家世実記』巻之89 宝永元年7月15日条 『会津藩家世実記』第5巻391頁)
- 松川通新路、従公儀脇街道ニ被成替
- 元禄八年御内願被仰達、松川通新路被切開候処、山中難所多く、人馬之通行甚難渋ニ依而、江戸御上下にも稀々(まれまれ)之御通行ニ有之、其外御家中之者始売荷等迄多分此道へ不懸、脇道いたし候故、駅宿之者自然と困窮ニ及び、通路可相止哉と先年ヨリ御沙汰有之...

- 会津藩主・保科正容(まさかた)の宇都宮街道での参勤交代(出典:『家世実記』卷之79 元禄9年(1696)4月6日条 『会津藩家世実記』第5卷14頁)

為御参勤会津御発駕

此度御参勤之節ハ松川通新道御通行可被遊旨、此御道筋之儀ハ去年中漸致成就、
駅々之民家も不全内、大関大助様御領分黒羽領下野国那須郡三斗小屋者、御通行
之節御昼休二相成……

4月6日若松発駕→香塩昼休→松川泊→7日三斗小屋昼休→百村泊→

8日石上昼休→氏家泊→9日奥州街道雀宮昼休(宇都宮市)→古河泊(茨城県)

10日粕壁(春日部市)昼休→千住泊(足立区北千住)→11日江戸

5泊6日の行程

- 会津藩士は宇都宮街道を利用するように(出典:『家世実記』卷之79 元禄9年7月5日条 『会津藩家世実記』第5卷23頁)

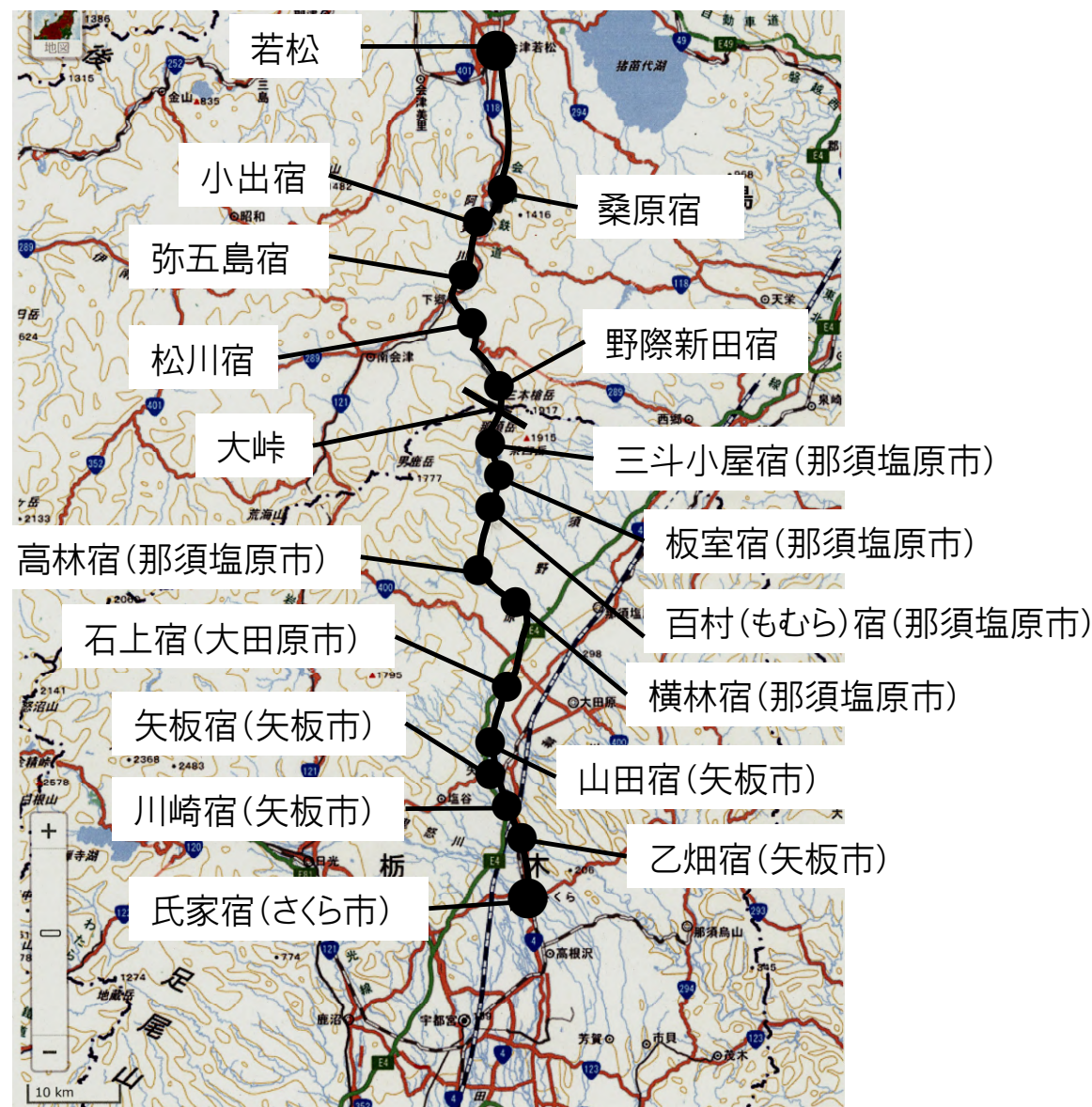
江戸へ罷上候者共、向後交代を始松川新道通行可致旨仰出、

松川新道之儀、乍御不自由今度参勤之節御通り被遊候、向後御家中面々九月交代
之者を始、新路を通り可然思召候……

宇都宮街道宿場位置図

出典：福島県内『新編会津風土記』

栃木県内『栃木県歴史の道調査報告書』第三集



●『新編会津風土記』に記されている宇都宮街道(福島県側)

- ①南青木村 村中に下野宇都宮街道あり 卷之32 歴史春秋社刊『新編会津風土記』第2巻104P
- ②御山村 宇都宮街道にて村中に一里塚あり 卷之34 第2巻145p
- ③面川村 宇都宮街道を挟み住す 卷之34 第2巻142p
- ④石村 宇都宮街道にて村南に一里塚あり 卷之34 第2巻142p
- ⑤下雨屋村 村中に宇都宮街道あり 卷之34 第2巻141p
- ⑥上雨屋村 宇都宮街道を挟み住す 卷之34 第2巻140p
- ⑦南原村 田中・関屋・大門・花河原とて四区に住せり、元禄中宇都宮街道を開し時此に移す
卷之34 第2巻139p
- ⑧香塩(かしお)村 此村旧曲田・大瀬戸・石原とて三区に住して、山田という端村あり、
元禄中宇都宮街道を開し時、此に移して一村とす 卷之34 第2巻138p
- ⑨大豆田(まめた)村 此村旧塩森・上台・二屋・上田とて四区に住す、元禄中宇都宮街道を開し時、
塩森・上台・二屋の三区を集めて一村とす 卷之34 第2巻137p

- ⑩小塩(おしお)村 宇都宮街道に住す 卷之35 第2卷161p
- ⑪桑原村 この村宇都宮街道駅所にて、本郡南青木組香塩村より、二里十八町此に継ぎ
此より十三町五十二間小出村駅に継ぐ 卷之35 第2卷159p
- ⑫小出村 下野国宇都宮街道の駅所にて、桑原村駅より十三町五十二間此に継ぎ
此より二里九町三十八間弥五島組弥五島村駅に継ぐ、
- ⑬弥五島村 宇都宮街道駅所にて、小出組小出村駅より二里九町三十八間此に継ぎ、
此より二里松川組松川村駅に継ぐ、また、下野に行く裏街道に継ぎは
一里にして松川組塩生村駅に継ぐ、
- ⑭塩生(しおのふ)村 下野に行く裏街道駅所にて、弥五島組弥五島村駅より一里此に継ぎ
此より三里田島組田島村駅に継ぐ、 卷之37 第2卷181p
- ⑮松川村 宇都宮街道の駅所にて、 卷之37 第2卷175p
- ⑯野際新田村 この村は、元禄八年(1695)宇都宮街道開けし時、新たに設けし駅所にて、
ここより三里下野国那須郡三斗小屋村駅に継ぐ、

●宇都宮街道の各区間の距離 その1

出典:『家世実紀卷之七十八』元禄8年10月9日「南山松川通新道成就」から
(『会津藩家世実紀』第4巻633p)

	区 間	里 数	現在の距離に換算
1	若松大町より面川	2里5町7間	約8.4km
2	面川より香塩	1里8町45間	約4.9km
3	香塩より小塩	23町4間	約2.5km
4	小塩より桑原	1里28町49間	約7.1km
5	桑原より小出	13町52間	約1.5km
6	小出より弥五島	2里9町38間	約8.9km
7	弥五島より松川	2里1町54間	約8.1km
8	松川より野際新田	1里34町50間	約7.7km
9	野際新田より三斗小屋	2里34町	約11.6km
10	三斗小屋より板室	3里2町50間	約12.1km
11	板室より百村	1里2町26間	約4.2km

1間(6尺)	約1.82m
1町(60間)	約109m
1里(36町)	約3.93km

●宇都宮街道の各区間の距離 その2

出典:『家世実紀卷之七十八』元禄8年10月9日「南山松川通新道成就」から
(『会津藩家世実紀』第4巻633p)

	区 間	里 数	現在の距離に換算
12	百村より高林	1里23町42間	約6.5km
13	高林より横林	1里10町50間	約5.1km
14	横林より上石神	2里13町10間	約9.3km
15	上石神より山田	35町45間	約3.9km
16	山田より矢板	1里4町15間	約4.4km
17	矢板より川崎中町	25町5間	約2.7km
18	川崎中町より乙畑	1里28町	約7km
19	乙畑より氏家	1里27町54間	約7km
		31里10町52間	約123km

●宇都宮街道の経路

出典:『家世実紀卷之七十八』

元禄8年10月9日「南山松川通新道成就」から
(『会津藩家世実紀』第4巻635p)

要約

- ①あみた(阿弥陀)町を東へ千石町を通り野に出る。
- ②石引道を南へ天寧寺町に出る。
- ③宗英寺前を通り湯川橋に出る。
- ④この所より、小田村建福寺前を通り、北青木村・南青木村・御山村・堤沢村・根岸村・面川村・石村を通る。
- ⑤それより、雨屋薬師岩の上の山道を通り、下雨屋村・宮内村・上雨屋村・南原村・香塩村・大豆田村までは、山岸を通る。



文化八末年三月

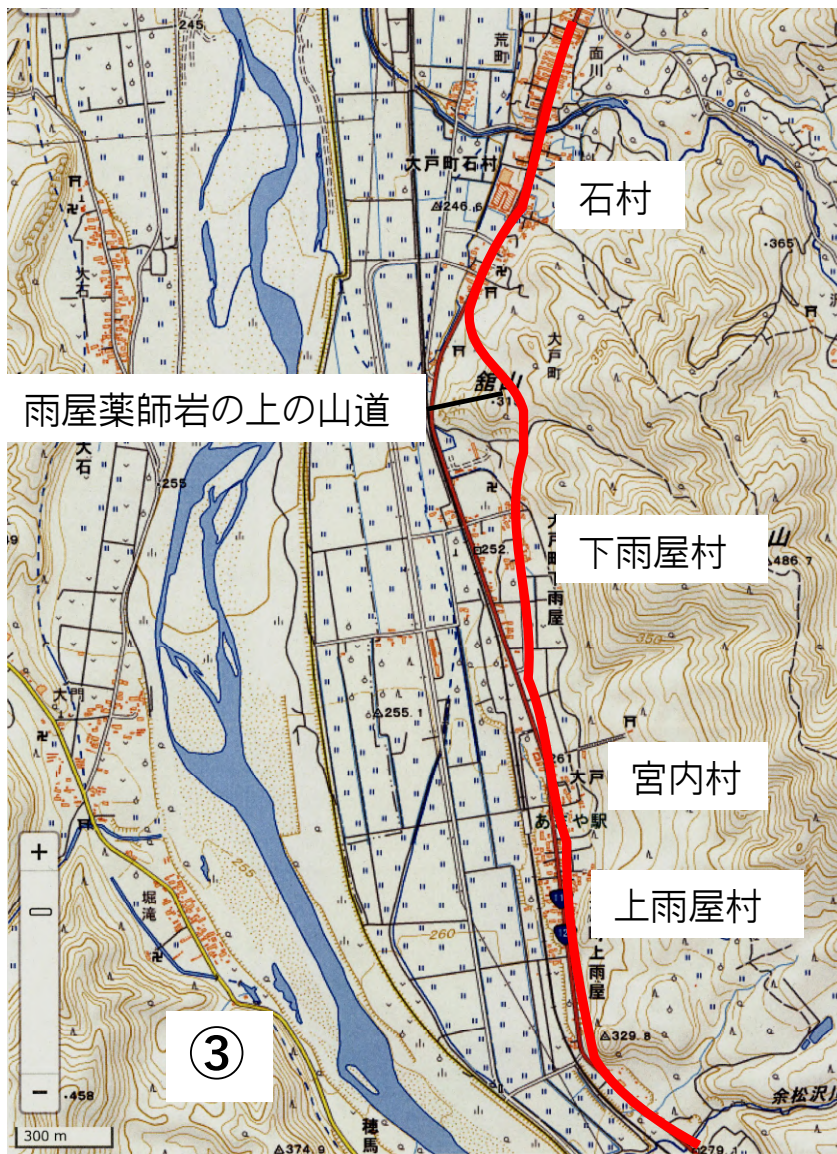
右 たじま 日光

道

左 いわや観音



宇都宮街道 南青木の道標





右 たじま 日光
左 薬〇〇〇〇〇(薬師堂力)
(道)



宇都宮街道 石村の道標



今も残る宇都宮街道雨屋薬師岩の上の山道

會津五薬師
磐屋山薬王寺 薬師堂 由来

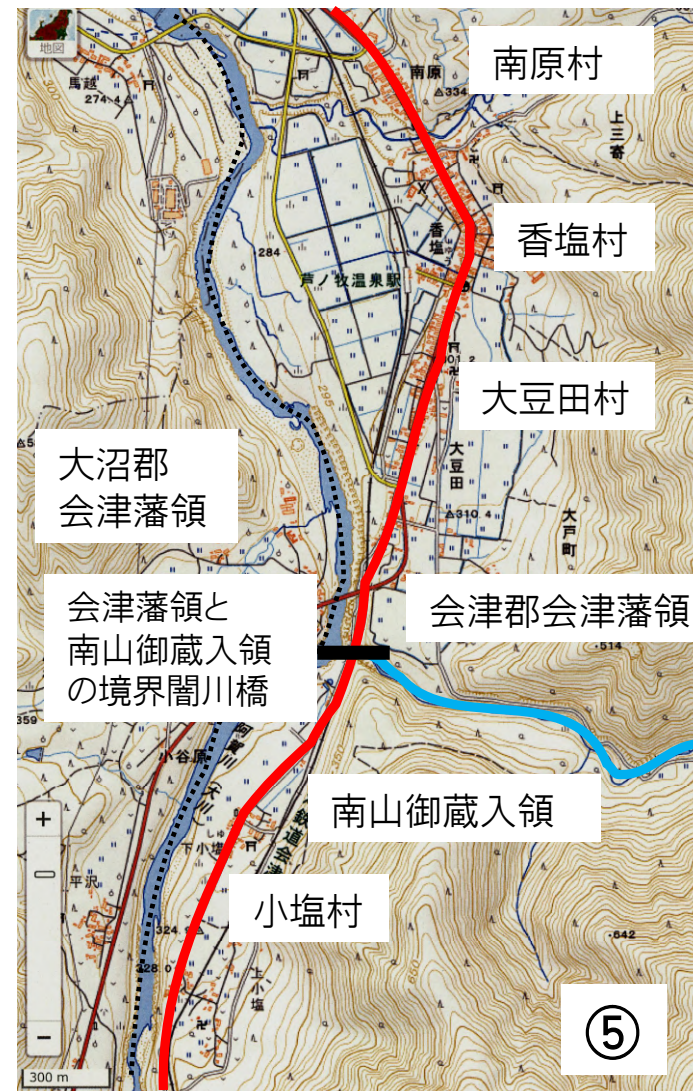
會津五薬師のうち、南の薬師として親しまれ、近代に至るまでにぎわいを見せていた当寺薬師堂は、大同二年、弘法大師奥州巡錫の折、岩窟の中に御堂を構えたのがその濫觴であると「會津鑑」に記されております。その後、雨屋金山があった岩山に移され享保十四年にはその場にて建替えられていますが、老朽化も甚だしく、平成十八年、岩山から下して、移転新築されました。薬師信仰は衆病悉除、身心安樂を旨といたしますが特に子供の安全な成長、就中、蒲生公ゆかりの北山漆薬師の二つ児詣りと、雨屋薬師の四つ児御礼詣りは欠かすべからざることとして人口に膾炙され、伝えられてきました。今回の建替えによって古いしきたりを復興出来ればと念じております。

薬王寺 録事

會津五薬師については、「會津旧事雜考」の中に、勝常寺の覺成が当国鎮護のため、勝常を中央として、東は大寺、南は火玉、西は西山、北は北山に、五薬師を安置したと書かれています。「耶麻郡誌」によれば、この火玉というのが雨屋の薬師だとされています。時代の変遷により、南と西の薬師には諸説がみられ、野寺を南とする説や、宇内を西とする説もあります。



下雨谷に移築された薬師堂



閭川

●香塩村設置について

出典:『家世実紀卷之七十八』元禄8年10月9日「南山松川通新道成就」から
(『会津藩家世実紀』第4巻635p)

原文

香塩村御設之義、孫九郎江可承合候、尤香塩村ハ若松より三里有之、馬次ニ致可然
所ニ相見候ニ付、近郷之家居を相集馬次ニ相立候積ニ而、則町割之縄引いたし差置、

要約

- ①香塩村新設の事について、孫九郎(会津藩士)に承合(調べのため、問い合わせる
こと)させている。
- ②香塩村は若松から三里(約11.8km)の位置にあり、馬継(荷物の中継地)には良い場所
である。
- ③近郷から家居を集めて香塩村を新設する。

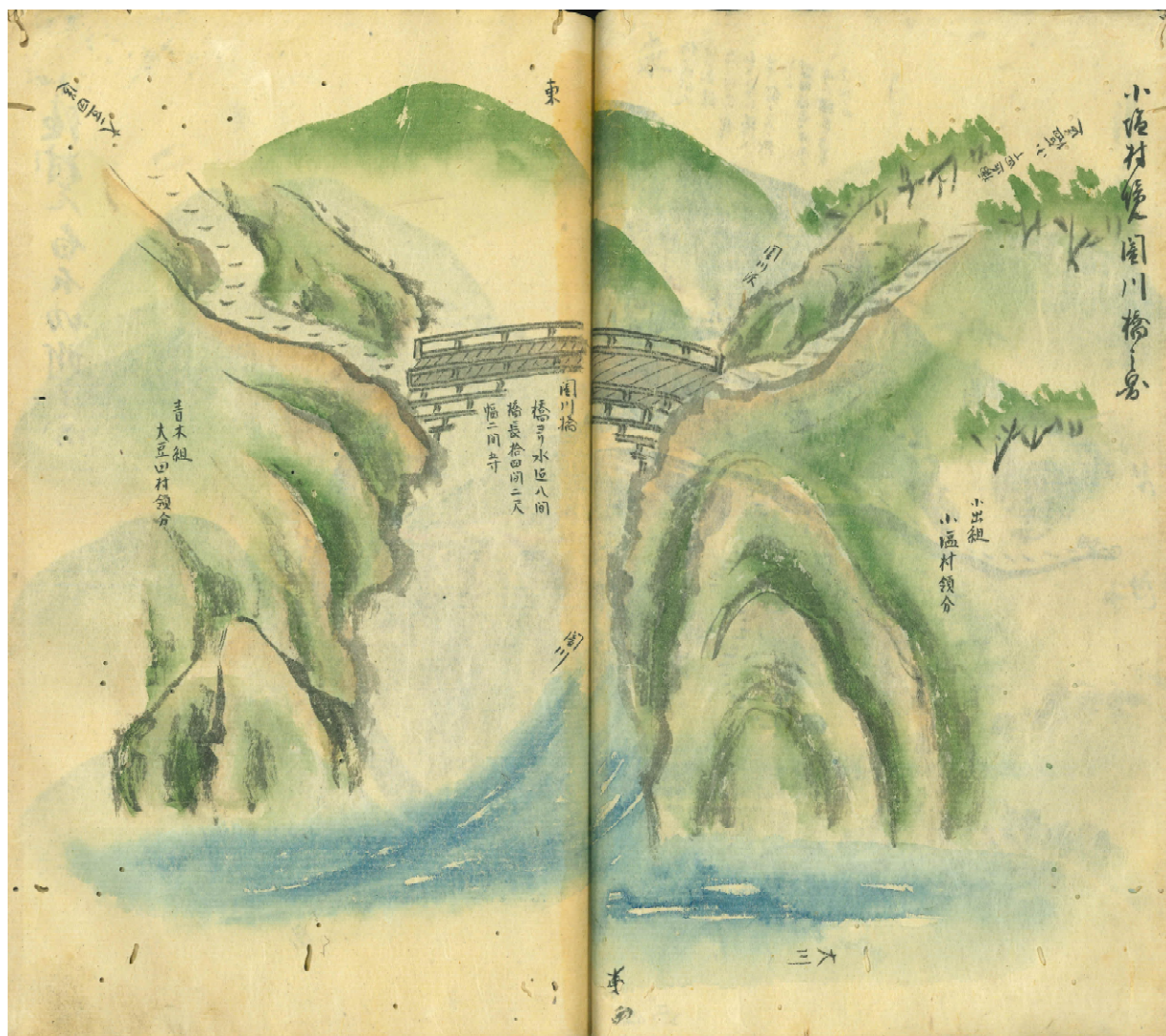
※香塩(かしお)村 此村旧曲田・大瀬戸・石原とて三区に住して、山田という端村あり、
元禄中宇都宮街道を開し時、此に移して一村とす

『新編会津風土記』卷之34 第2巻138p



宇都宮街道闇川橋 手前が会津藩領 橋を渡った先が南山御蔵入領

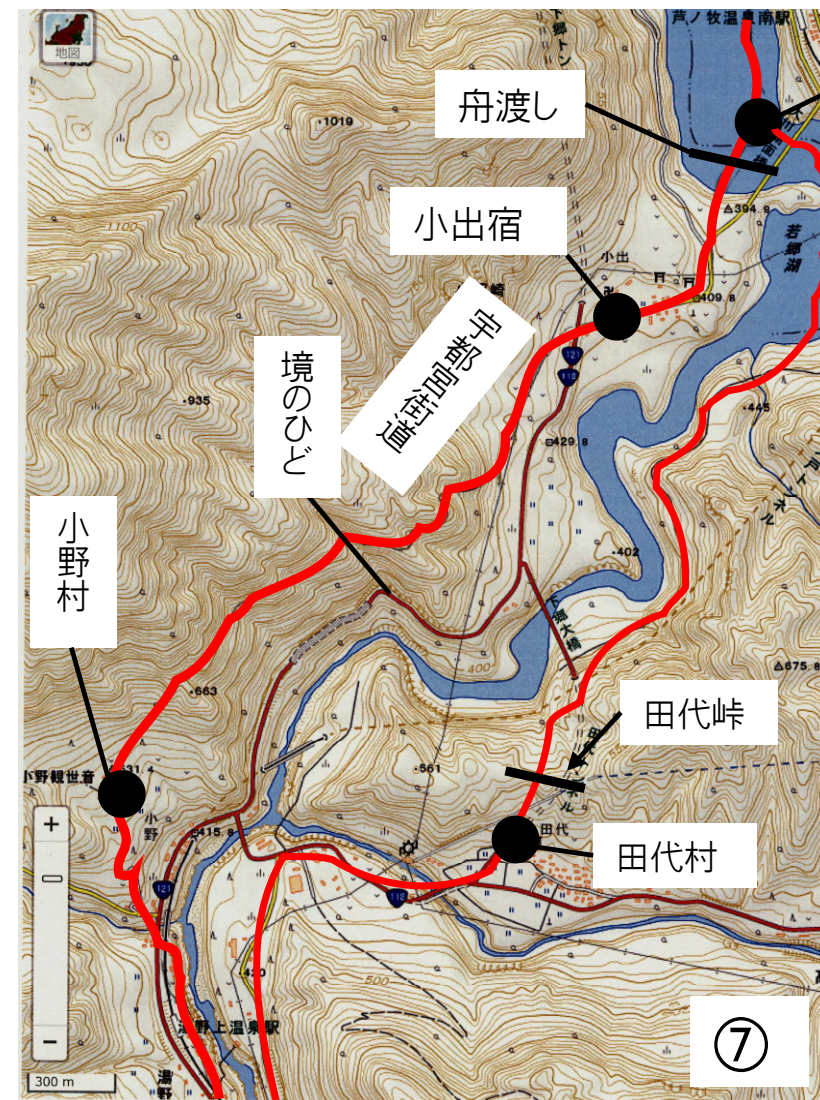
閼川橋は、会津藩と南山御蔵入の境



小塩村境閼川橋之図

福島県立博物館所蔵

図書三 下郷之部 榎原組 小出組



橋 村より未南南西)の方十三町(約一・四km)宇都宮街道
 大川に架す、長十二間(約二十二m)、幅九尺(約二・七m)欄干あり
 出典:『新編会津風土記』第二卷一六五頁

